

岩見沢市との健康づくり等に関する連携協定報告

健康科学分野/健康イノベーションセンター 教授 小笠原 克彦

保健科学研究院及び岩見沢市は、健康分野で相互に協力し、新たな健康科学を創造し、地方創生に貢献することを目的として、平成29年5月31日(月)に連携協定を締結しました。



健康づくりで連携協定
 健康科学創造し 介護予防などで企画を
 地方創生貢献を
 岩見沢市は、5月31日、いわみざわ健康ひろばで北大保健科学研究院と連携協定を締結した。協定は、市民の健康づくりや介護予防に役立つ企画立案、産学連携推進の推進のため、

北大保健科学研究院と連携協定を締結した。協定は、市民の健康づくりや介護予防に役立つ企画立案、産学連携推進の推進のため、

当日は、岩見沢市の「いわみざわ健康ひろば」で協定の調印式が行われ、保健科学研究院の齋藤健研究院長、岩見沢市の松野哲市長の両名が協定書に署名しました。また、調印式においては、松野市長からは「中長期的に健康分野での協力を進めていくための第一歩」と抱負を述べられ、齋藤研究院長が「介護予防や認知症、医療分析等で連携し、健康づくりに役立てたい」と発言がありました。今回の協定締結により、岩見沢市を研究フィールドとした健康科学分野における様々な研究を行い、その研究成果をもとに、岩見沢市の各種健康施策の企画立案に協力していくことを目指しています。

保健科学研究院では、平成22年より岩見沢市、ICT企業やドラッグストアと共同で、ICTを活用した健康増進・高齢者見守り支援に関するプロジェクトとして、「遠隔健康相談システムの開発実証」や「岩見沢市北村地区における健康サポート・遠隔健康相談システムの開発実証」「ICTと地デジを活用した高齢者見守りシステムの開発実証」等を行ってきました。

現在、保健科学研究院の教員が講師として、岩見沢市の保健師・保健推進員と共同で開催する健康講座も定期的に開催しており、平成28年度は冬場の運動や体力づくりの方法、骨の健康と食生活に関する内容等について、全4回(参加者数361名)を実施しました。今年度は全7回の健康講座を市内各地で開催する予定です。

北海道大学では、平成25年に文部科学省及び国立研究開発法人科学技術振興機構による「革新的イノベーション創出プログラム」(COI STREAM)に採択され、北海道大学COI「食と健康の達人」拠点として、岩見沢市を実証フィールドとした産学連携による研究活動および社会実装を進めており、その中で、保健科学研究院の研究チームとしては「健康コミュニティの構築(担当:小笠原克彦)」「骨盤底筋機能と尿失禁に関する調査(担当:寒川美奈)」「認知症予防・早期発見とその対応に関する研究(担当:村田和香)」「口腔環境・機能に関する研究(担当:堤香織)」等に取り組んでおります。また、AI(人工知能)を活用した岩見沢市国保データ分析等、医療費に関する経済性分析や市民の健康状態の予測といった研究活動も進めております。これらの研究につきましても、この新たな連携協定により、これまで以上に連携した活動を進めていくことができると考えております。

この度の岩見沢市との健康づくり等に関する連携協定の締結により、保健科学分野の研究を進めていくなかで、本研究院と岩見沢市が、今後益々教育・研究及び地域貢献を推進していくことが期待されます。

